



第四十一号

「秘蔵名曲^{セレクション}選 1」

メルマガnoichi41号、今月のテーマは『秘蔵名曲選』。

古典から現代まで、箏曲史における各時代の名作を網羅した正派邦楽会の公刊楽譜。

その五百曲以上に及ぶ所蔵作品の中から、

後世に残したい名曲が、今再び注目を集めます。

江戸幕府の崩壊まで箏曲界を独占していた当道座（盲人組織）が解体消滅して以降、明治時代から大正・昭和にかけて箏曲は一般層にどんどん普及しました。その間、人々に最も重宝されたのが「楽譜」だと思えます。箏曲界は楽譜の普及により、子供でも学べる音楽として急速に一般家庭に浸透していきました。楽譜の誕生により稽古内容も次第に合理化され、私たちにとって勉強がし易い身近な音楽になりました。むろん、近年楽譜に依存してきたことによる代償もありますが、それは、私たちが謙虚に向き合っていくべき一つの課題です。前置きがやや長くなりました。

熱を汲み取って頂ければ幸いです。記念すべき第一回目の秘蔵名曲選は、大久保三郎作曲の「メリーゴーランド」に決まりました。一人でも多くの箏曲家にお楽しみ頂けましたことを願って、これから製作に励みます。尚、動画の公開は11月の中旬頃を予定しております。動画の公開日には、メルマガhome3編集部から読者の皆様にご一報させて頂きまことを御承知おき頂きたく、ご高覧並びに、ご意見ご感想を是非お寄せ頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

奥田雅楽之一

さて、正派邦楽会は百年の歴史の中で五百曲以上の楽譜が出版されてきました。時代、ジャンルを問わず、後世に残したい作品”を分け隔てなく世に発表してきた正派公刊楽譜のスタンスは賞賛されるべき偉業です。事実、積み重ねてきた楽譜の刊行は名曲の収集に結実しており、流派、業界の繁栄に貢献したといえます。私たち株式会社M3では会社設立当初から「楽譜制作室」を設け、正派公刊楽譜の経緯を辿いながら過去の出版状況を順次データ化しています。そこで、

今回取り上げた曲は、大久保三郎作曲「メリーゴーランド」子供と老人のいる風景」。箏三パートに十七弦パートの四重奏曲です。元々は、作曲者自身のピアノの曲を唯是震一が箏合奏用に編曲したものです。

メリーゴーランド

私たちは「後世に残したい作品”について再考し、長い歴史文化背景の陰で埋もれてしまった名曲の発掘に力を注いでいく意義を感じ始めました。そういった経緯で持ち上がったのが今回の企画『秘蔵名曲選』です。『秘蔵名曲選』は、前述の五百曲強の中から「名曲でありながら、今ひとつ周知されていない作品」を皆様にご紹介するという、実に楽しい企画です。作品をご紹介する方法については楽譜制作室で協議を重ねたところ、やはり音楽は言葉でお伝えするより「聴いて頂くことが一番！」という意見が多数を占めまして、『秘蔵名曲選』は動画作品として、いつでも、どなたにでも、簡単に聴いて頂ける最善の方法とします。YouTubeを活用してみることにしました。私たちの力不足で曲の魅力が十分にお伝え出来ないかもしれませんが、曲に対する私どもの誠意と情

今回この曲を選んだ理由としては、私が楽器を演奏し、曲を作り、楽譜を書き、という立場・視点から考えたのもそうですが、やはり原点に立ち帰ると、まずは、合奏して楽しい曲、ということでした。

合奏して楽しい、それは自分の経験則で考えると、大学生時代にさかのぼります。それまで特に好きなこともなかった私が、たまたま邦楽サークルで三味線を始めたのをきっかけにして今に至るのは、合奏が楽しい、その一言に尽きると思えます。

「メリーゴーランド」は六曲から成る小曲集になっています。

三連符での表現豊かな「まわるまわる」、短いながらも曲の切り替わりが印象的な「想い出（貝がらと風車）」、タイトル通り瞬間的に畳み掛けるような



↓次ページにつづく

「かんしゃく」、リズムの絡み合いで合奏力を試される「希望」、軽快な曲調が楽しい「ワルツ」、静かな旋律の「晩秋譜」。それぞれ特徴は違いますが、どの曲も情景豊かな曲調で、合奏して楽しむには恰好の素材ではないでしょうか。

また、古典曲とは違い、連符も含めたリズム、音の強弱（ダイナミクス：dynamics）、スタッカートやアクセントなどのアーティキュレーション（articulation）を正確に読譜することが大切であり、またそういった力をつける練習にもなると思います。

楽譜製作室

「メリーゴーラウンド〜子供と老人のいる風景〜」

【編 成】 箏3・十七絃

【難易度】 ★★☆☆☆

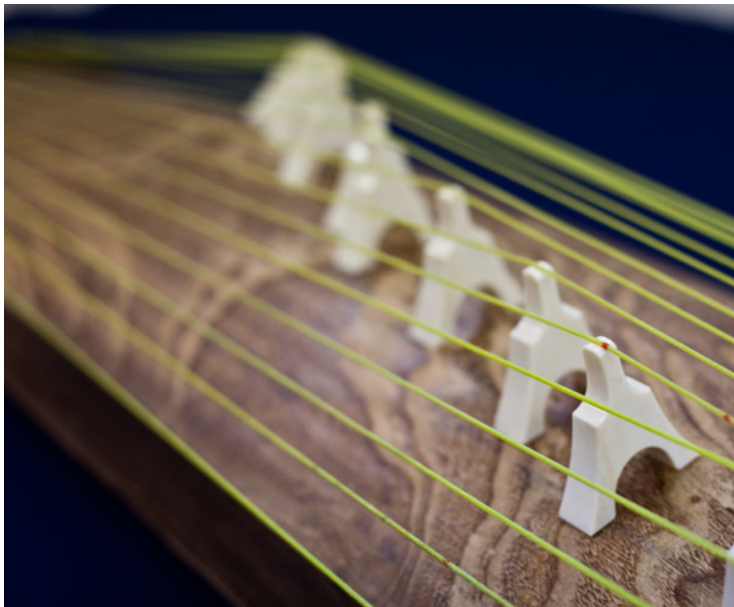


Illustration: morimoe

「音楽と建築〜邦楽と安田楠雄邸〜」

大正八年に建築された近代和風建築である、旧安田楠雄邸の中を移動・見学しながら演奏を楽しんでいただく、回遊式演奏会です。

日にち：十一月二十三日（日）

時間：第一回十三：〇〇〜 完売

第二回十五：〇〇〜 完売

第三回十七：〇〇〜

会場：旧安田楠雄邸（東京都文京区）

料金：各回一、五〇〇円

定員：各回二十五名（予約制）

お申込み・お問い合わせは（株）NYC.

e-mail：officeutanoichi@yahoo.co.jp または

電話・ファックス：03・3288・8001

までお願いします。

チラシ：http://www.utanoichi.jp/yasudatei.pdf

◎あとかぎ◎

少し前に知り合いになった若い子が事務所に遊びにやってきました。いまだき珍しい、まっすぐな感動屋さんで、いい意味で少しだけ凶々しい。若いころに集めた八十年代の本などを見せていると、「おおー」とか「すげー」とか声を上げながら何時間も飽きもせずページをめくっていた。最近ではあまりこういうタイプの若者を見かけない。「このあたりの写真はちょっと前まで、かっこ悪くて見てられない感じだったんだよ」と教えてあげると意外そうな顔だった。

世の中の流行みたいなのは、ぐるぐると廻っている。ただ廻るだけではなく、少し上下にずれて、横から見ると螺旋状になっている。ずれているところが意外と重要で、かすかに進歩しているのか、ただ違っているのかは分からないが、小さいようで大きな差があるのは確かだ。世の中は廻る糸車。メリーゴーランドもまた同じ。見えては隠れ、また元に戻ってくる。メリーゴーランドは同じ軌道を廻っているように見えるけれど、地球は宇宙空間をもすごいスピードでどんどん進んでいるから、実は前回とまったく違う場所にいるのに、乗っている当人は気がついていないのだ。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

